

平成26年度教育研究活動報告書

氏名	稲川 豊	所属	芸術文化学部美術学科
学位	MA FINE ART (修士・美術)	職位	講師
専門分野	油彩画		
I 教育活動			
本年度担当科目			
学部	デッサン基礎実習 総合基礎実習 構成実習 油画実習Ⅰ 油画実習Ⅱ 油画実習Ⅲ 古美術研究演習 卒業制作		
大学院	油画研究ⅠA 油画研究ⅡA 絵画総合演習		
II 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
(1) 2005年 「HYBRID」 (個展) Gallery Zandari/ソウル/韓国 (カタログ)			
(2) 2008年 「Cosmopolis: Yutaka Inagawa and Adam King」 Pippy Houldsworth Gallery/ロンドン/イギリス			
(3) 2007-9年 文化庁新進芸術家海外留学制度2年派遣/ロンドン/イギリス			
(4) 2009年 「Sensory Cocktails」 (個展) Gallery Zandari/ソウル/韓国 (カタログ)			
(5) 2014年 「Invasion of Cyberspace」 (個展), Curated by Christina Mitrentse, Unit24 /ロンドン/イギリス			
本年度を含む過去3年間の研究業績			
(1) 2015 Glass Magazine 5周年記念コラボレーション(モンタージュ制作), Spring Issue 2015 (4ページ)			
(2) 2014-15年 「Invasion of Cyberspace」 (個展), Curated by Christina Mitrentse, Unit24 /ロンドン/イギリス			
(3) 2014年 海外雑誌(オンライン版) 展覧会評掲載「Invasion of Cyberspace」 文: Christina Mitrentse(キュレーター、UK) Interative.			
(4) 2014年 海外雑誌(オンライン版) 展覧会評掲載「Invasion of Cyberspace」 文: Stephanie Clair(アートライター、UK) Glass Magazine Online.			
(5) 2014年 個展形式企画展「「静かなもの: The Standstill of Painting」なかつ美術館/尾道/広島			
(6) 2014年 アーティストトーク 「アーティスト・ミーティングー静かな物そして、見えない絵画」なかつ美術館/尾道/広島			
(7) 2014年 ワークショップ「受け入れて制作する」なかつ美術館/尾道/広島			
(8) 2014年 アートフェア [Affordable Art Fair], The Tunnel, ニューヨーク、(with Tolman Collection)			
(9) 2013年 海外雑誌(オンライン版) 展覧会評掲載「We Shall Meld」 文: 阿部純/津口在五(AIR onomichi 編集部) Glass Magazine Online.			
(10) 2013年 アーティストトーク『デジタルな生活と身体表現』/八千代の丘美術館/広島			
(11) 2013年 「Slow Life: Generation in Exchanges」 安芸高田市立八千代の丘美術館/安芸高田市/広島			
(12) 2013年 「ベネトンコレクション企画: Imago Mundi」 Fondazione Querini Stampalia/ヴェネツィア/イタリア			
(13) 2012年 「おももちーexpression」 光明寺会館/尾道/広島			
(14) 2013年 美術学科教員展(尾道市立大学美術館)			
(15) 2013年 八千代の丘美術館にてワークショップを開催(2回)			
(16) 2013年 アーティスト・トーク「無節操ー暗号ーアイデンティティ」 光明寺会館 尾道			
(17) 2014年 夏季特別展示ツナガルケシキ(大三島美術館)			
現在の研究テーマ(3つまで)			
(1) デジタル・プロジェクションと現代日本におけるアイデンティティ			
(2) パラレル・ワールドと絵画、インスタレーション、写真の関係性			
(3) デジタル表現とフィジカルな行為を伴う表現の関係性			
研究テーマの進捗状況	日常のスナップショット(デジタル)をもとに制作したモンタージュからフィジカルな制作行為を伴う絵画、ミクスド・メディアの可能性の模索を行っている。海外での個展、グループ展での発表、インターナショナル・マガジンとのコラボレーション、海外雑誌へ活動が取り上げられる等、外部への発表及び専門家によるフィードバックを生かして、より深い検証、発展が行えている。今後はデジタルと絵画の関係性を軸に、複数のメディアにまたがった現代表現の追求とその社会との関わりの可能性をさらに進めていきます。		
学会、所属団体における活動 (本年度を含む過去3年間の研究業績)			
所属学会・所属団体 役職等			